

## 外国語科「時事英語」授業実践紹介

授業者：岸田 典子

学 年：3年キャリア探求科

単元名：Share about my hero「あなたにとってのヒーローを英語で紹介しよう！」

単元のねらい（7つのチカラ：コミュニケーション力、自立する力）

- ・英語の長文を読み、必要な情報を読み取ることができる。
- ・自分が魅力を感じる人物・キャラクターについて情報を収集し、英語でプレゼン原稿を作成することができる。
- ・正しい発音を意識して、英語を用いたプレゼンをすることができる。

単元の流れとパフォーマンス課題

- ① 導入：教科書の本文から、小平奈緒選手の強さの秘訣を英文で読み取る。（Watching News Lesson4 “Speed Skater Kodaira Nao”）（2時間）
- ② パフォーマンス課題『あなたにとってのヒーローを英語で紹介しよう！』（8時間）
  - (I) 紹介したい自分のヒーロー（憧れの対象）を決定する。
  - (II) 自分のヒーローについて調べる。
  - (III) 日本語で原稿を作り、その後英語の原稿を作成する。
  - (IV) プレゼンに向け、パワーポイントを作成する。
  - (V) クラスの前でプレゼンをする。



パフォーマンス課題の評価

パワーポイントを用い、“My hero”について英語と日本語のどちらもを使用してプレゼンができる。

	5	3	0
声の大きさ	教室の最後尾にいる生徒にも、十分に聞こえる。	教師室の最後尾にいる生徒に半分以上の内容が聞こえる。	教師室の最後尾にいる生徒にはほとんど聞こえない。
発音のスムーズさ	ほとんど詰まることなくスムーズに英語での発表ができています。	ところどころ詰まりながらも、全体的にスムーズに英語での発表ができています。	発表の中で詰まることが多く、英語での発表がスムーズにできていない。
原稿の中の情報量	発表対象についての情報が5つ以上ある。	発表対象についての情報が3つ以上ある。	発表対象についての情報が2つ以下しかない。
パワーポイントの工夫（分かりやすいスライド作り）	ほとんど全てのスライドにおいて、聞き手が視覚的にも情報を得られるよう工夫が見られる。	過半数のスライドにおいて、聞き手が視覚的にも情報を得られるよう工夫が見られる。	スライドに工夫が見られず、聞き手にとって視覚的な情報収集が難しい。

単元を通して身につけてほしいこと

身につけてほしいことは、生徒の英語学習へのモチベーションである。今回生徒には日本語を英語に直すという作業そのものではなく、直した英語をプレゼンの中で活用するという点を意識させた。「伝えたい」と思ったことが英語ではどのように表現されているのかを知り、実際にプレゼンで使用する場面があることが、今後の英語学習に向けてプラスのきっかけとなってくれば、と考えた。

## 実践の背景

1学期に生徒たちは、「世界の果てまで知って Q」というタイトルで、地球儀からランダムに選んだ国についてグループ単位での発表を行った。そのプレゼンの様子を見て、個人で英語のプレゼンすることも可能であると感じた。さらに、生徒の主体性を引き出すために、各自プレゼンの対象となる人物やキャラクターを自由に選ぶことができるようにした。将来的に英語でプレゼンを行うような職業につく生徒は多くないかもしれないが、電子辞書等の補助があればプレゼン原稿を英語で作成できる、ということを生徒たちに実感してもらいたいという思いから実践した。

## 授業改善のアプローチ

- 生徒にとって目指すべき方向が明らかで、取り組みやすいものになるように、まず始めにパフォーマンス課題における評価のルーブリックを提示し、生徒に到達点を把握させてからプレゼンに向けての準備をさせた。
- 目指してほしいレベル（B 評価）のイメージをもってもらうために、教員が例となるようなプレゼンを行い、生徒に見せた。
- 英語だけでプレゼンをすると、内容の理解が難しい生徒が多いので、プレゼンは英語→日本語、の順番で発表させた。
- プレゼンしている生徒だけでなく、聞いている生徒にも課題を与えるため、一人ひとりの生徒のプレゼンをその他全員に評価させ、プレゼンに対する感想を自由に書かせた。

## 生徒の変容

プレゼンに向けて調べる対象を決定するところから、発表原稿の構成を考え原稿に合わせたパワーポイントを作成するところまで、生徒は全て自分たちで決定し取り組んできた。単元を通して、生徒には主体性が身についたように感じる。また、生徒が書いた振り返りシートから以下のようなコメントがあった。

—以下生徒のコメント—

「英文を作ることは難しくて時間がかかった。英語を正しい発音で読むということを意識して頑張れた。」

「聞き手に伝わりやすいパワーポイントを作ることを頑張った」「自分の言いたいことを表現することの大切さ学んだ」「知らなかった英語の表現を知れた」「他の人の発表で工夫されているところがたくさんあって今後の参考になった」

この単元が始まった当初は、英語でプレゼンをするということは生徒にとって若干ハードルが高いようであった。しかし、プレゼン当日までの日数を逆算しそれぞれにゴールに向けて必要な準備を計画立てて行う様子を見て、多くの生徒に自立する力が付いたように感じた。また、クラスメイトに伝わりやすいようパワーポイント作りで工夫をしている様子や、他者のプレゼンを聴いている生徒の様子からも、コミュニケーション能力の向上を感じた。

## 評価

- ①パフォーマンス課題、振り返りシートに対する評価（40%）
- ②定期考査による評価（60%）